

令和5年3月21日

第2回 道德教育オンラインフォーラム

これからの道德教育、「特別の教科 道德」の課題

—子どもたちの道德的学びを深める—

武庫川女子大学

押谷由夫

話の大筋

特に次の4点に絞ってお話しします

1. 学校経営、学級経営の核となる道徳教育をどう具体化するか（道徳教育は学校経営、学級経営の柱である）
2. 「特別の教科 道徳」を要に一人一人の子どもたちの道徳的成長をどのように援助するか
（一人一人の道徳的成長を見取り援助する）
3. 「特別の教科 道徳」の授業をどう充実させるか
（ねらいにかかわる考えや思いを引き出す）
4. 価値観多様化時代においていかに寛容の心を育てるか
（憎しみを乗り越える力の育成）

1. 学校経営、学級経営の核となる道徳教育をどう具体化するか

(道徳教育は学校経営、学級経営の柱である)

学校経営、学級経営において道徳教育を重視するとは、学校教育の本来の在り方を追い求めること

- 1) **学校や学級を一人一人の豊かな人間形成の場にする**
(変動する社会の中で人間として自分らしくどう生きるかを考え
追い求められようにする)
- 2) **学級や学校の成長と一人一人の成長を同時相即的に考える**
(よりよい自己、よりよい社会を一体的に捉え追い求める)
- 3) **それらの根底に健全な道徳的価値意識の追求をおく**
(人間としてどう生きるかの基本に道徳的価値意識の追求がある)

※心の成長と学校・学級集団の成長過程を
押さえることが大切

3 成長集団（心の成長の実感）

2 準拠集団（心のよりどころ）

1 所属集団（心の居場所）

成長過程に応じて力点の置き方は異なるが、1、2、3を常に意識して取り組む

1 所属集団（心の居場所）

子どもたちにとって、通学する学校・学級は、与えられたもの。

したがって、与えられた所属集団をいかに心の居場所にしていくかが最初の課題

その課題への対応としてのポイントは

- 1) **安心、安全**な場所であること
(みんなが声をかけてくれる、何かあれば相談できる等)
- 2) 自分が**集団の一員**として位置づけられている
(一人一役、自分の机や棚、掲示のコーナー、名札、1分間スピーチ等)
- 3) 自分がみんなから**認められ**ている
(みんなとあいさつがし合える、誕生日の祝い、欠席者への対応等)
- 4) 集団の活動に**参加**できる
(授業で自由に話せる、いろんな取組にかかわれる。みんなと遊べる等)
- 5) **楽しみ**にできるものがある
(朝、先生がみんなを迎えてくれる、今日の1日を楽しみつつ予測できる等)

2 準拠集団（心のよりどころ）

所属集団を準拠集団（心のよりどころ）へと発展させる

そのためのポイントとして

- 1) **心の支え**となる
（悲しい時や苦しい時その集団にいることで励まされる等）
- 2) 困ったときにみんなが**助けてくれる**
（困った時に助けてくれるとみんなを信頼できる等）
- 3) **自己成就感、やりがい感**が得られる
（自分を発揮できる、みんなに認められる）
- 4) **自己有用感**が得られる
（みんなの役に立つ、みんなが喜んでくれる等）
- 5) **共同体感覚**が得られる
（仲間意識、精神的にも支えられ自分に自信がもて表現できる等）

3 成長集団（心の成長が実感できる）

準拠集団を成長集団（みんなで高め合う集団）にする

そのためのポイントとして

- 1) **学校・学級目標と個人目標**の再検討と具体的追求
（個と集団の目標の明確化）
（全員でよりよい自己、よりよい集団を目指した目標づくり、
評価、修正。かかわりを広げ深める自己と集団等）
- 2) **創造的表現活動**の充実
（感動体験を共有する）
（みんながよさを生かして創りあげ、成果を実感する等）
- 3) **道徳的価値意識の高まり**と具体的実践
（感動の根源を育てる）
（道徳的価値意識とかかわらせて自己と集団の成長を実感できる等）

★ これらの取組に対して評価（チェック）
項目を設けて成果を見取り、さらなる充
実を図っていく

- 1) 一人一人が学校・学級を心の居場所としているか、心のよりどころとしているか、心の成長を実感できる場としているか
- 2) 道徳的価値意識とかがかわらせて自己成長、集団成長をとらえ協働しながら追い求めているか
- 3) 1, 2を中心とした評価（チェック）を考えることが大切



学級における道徳教育計画の作成を

学校の道徳教育の全体計画



学年の道徳教育の全体計画

(学年経営とかかわらせてポイントを押さえて作成する)



学級の道徳教育の全体計画

(学級経営とかかわらせてポイントを押さえて作成する)

2. 「特別の教科 道徳」を要に一人一人の子どもたちの道徳的成長をどのように援助するか (一人一人の道徳的成長を見取り援助する)

1 「特別の教科 道徳」の役割

- 1) 人間としての自分らしい生き方を道徳的価値とのかかわりで考え追い求める力を育てる
- 2) 具体的な生活や様々な学習活動の中での道徳的学びへと発展させる
- 3) 個人的学びと協働的学びを統合する
(多様性の理解とともに共通性、共感性を共有し、よりよい自己とよりよい集団(社会)への課題意識をもつ)

2 内容項目に関する学びを通して、自らの生き方や自分たちの生き方を日常生活で追い求められるようにする

※ 内容項目は実際の生活において自分（自分たち）を成長させるかかわり（自分、人、集団や社会、生命・自然や崇高なもの）を豊かにし、自己形成を図る窓口となるもの



「特別の教科 道徳」は、道徳の内容項目について、それぞれのかかわりを深めるという側面から捉え、日常生活や様々な学習活動において道徳的成長を図る自分（自分たち）の姿を想像できることが大切

★ 道徳的学びを通して想像力（イメージする力）と実践力をはぐくむことが大切

道徳的課題や場面に対して、道徳的価値意識を中心に

- ・ 感じる力
- ・ 考える力
- ・ 判断する力
- ・ 意欲づける力
- ・ 実践する力

道徳的価値
とかがわら
せた想像力
（イメージ
する力）

- ・ 自己
 - ・ 人（他者）
 - ・ 集団や社会
 - ・ 生命、自然や崇高なもの
- とのかかわりを深めてよりよい自己と社会を追い求める

3. 「特別の教科 道徳」の授業をどう充実させるか (ねらいにかかわる考えや思いを引き出す)

1 道徳の学習指導案のねらいについて (2つが必要)

- 道徳の授業では、ねらいは教材より先に決められる。従ってねらいの中に教材の内容が入るのは適切でないと考えられる。そこで、ねらいを2段階で考える必要がある。
- 最初に示すねらいは、**本授業を要としてこの1週間に展開する道徳教育のねらい**と捉える。
- 教材が決まった段階で、**この教材を活用してどうねらいにせまるかを考え本時の授業のねらい**を明確にする。そのようにしないと授業の展開が具体化しないし、評価もあやふやなものになる。

2 本時の授業のねらいをどう捉えるか

本時の授業のねらいは、この教材を基にどのようなことを学んでほしいかが書かれる。それは、ねらいに関わる道徳的価値について一人一人の道徳的成長を見取る窓口として捉えられる



評価はねらいを窓口として、子どもたち一人一人が自分のよさをどれだけ表出し成長させているかを見る

(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲・態度がどのように成長しているか)

3 多様な思考を促す

(1) 思考軸の視点移動（道徳的思考スキルⅠ）を工夫する

・対象軸の視点移動

相手の立場に立って考える、第3者の立場で考える、誰かがこの場にいることを想定して、その人の立場から考える、自分だったらどうするかを考える、等

・時間軸の視点移動

前はどうかだったのだろうかを考える、このような状態だったら（このような考えをもっていたら）これからどうなるのだろうかを考える、等

・条件軸の視点移動

条件や状況を変えて考える、仮説的に考える（もし批判的に考えるとどうなるか、もしこのような状況で考えればどうなるか等）、比較して考える、この状況を解決しようとするればどのようなこと（条件）が必要かを考える、等

・本質軸の視点移動

どうして（なぜ）このようになったのか（このように感じたのか）を考える、その背景にはどのような考え（思い）があったのかを考える、子どもの発言に対して「どうしてこのように考えたのか」、「そのことをもう少し考えるとどういうことになるだろう」と言ったことを問いかけていく、等

(2) 思考形態を変える (道徳的思考スキルII) 工夫をする

- ・ **疑問的思考**

疑問に思うところを考える

- ・ **批判的・論理的思考**

批判的、論理的 (理性的・合理的) に考える

- ・ **ケア的・心情的思考**

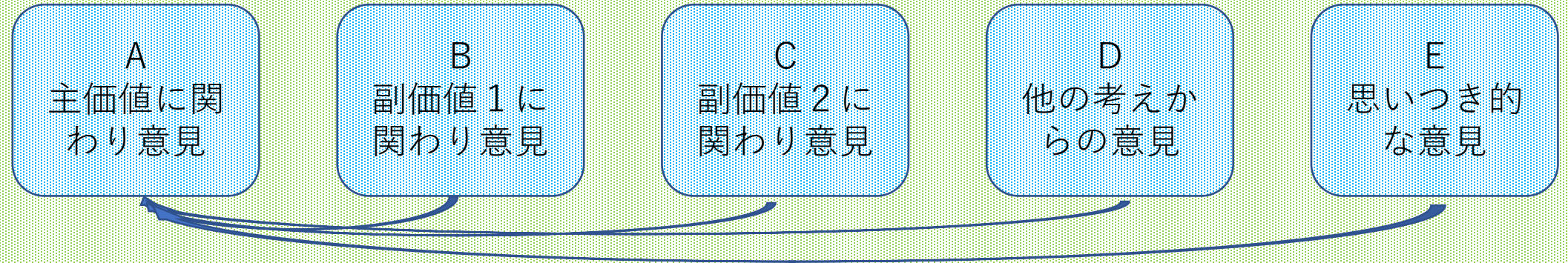
相手への心情移入 (思いやり) を基に考える

- ・ **創造的・発展的思考**

よりよい状況や方法を考える

(3) 多様な考えを整理する

★ 出された意見を整理することが大切



- ・まとめると考えると本時のねらいを強調することになりがち
- ・まとめるのではなく、どのような意見が出ているかを整理することが大切
- ・そのことで全員の意見が尊重される
- ・そこには副価値的なもの等があるはず。それらを主価値（本時のねらいと
かかわる道徳的価値）との関連でとらえられるようにもっていく
- ・そのことによって主価値の理解を深めるし、より自分の生活とかかわら
せてとらえられる

4 自分とのかかわりで考える工夫

(4つの思考軸の視点移動で考えることもできる)

対象軸の視点移動

- ・自分だったらどう感じる (そこに自分がいたらどう感じる)
- ・自分だったらどう考える (そこに自分がいたらどう考える)
- ・自分だったらどうする (そこに自分がいたらどうする) 等

時間軸の視点移動

- ・自分にも同じようなことがあったかな、その時どうだった
- ・自分にもこれからこのようなことがあるかな、その時どうする 等

条件軸の視点移動

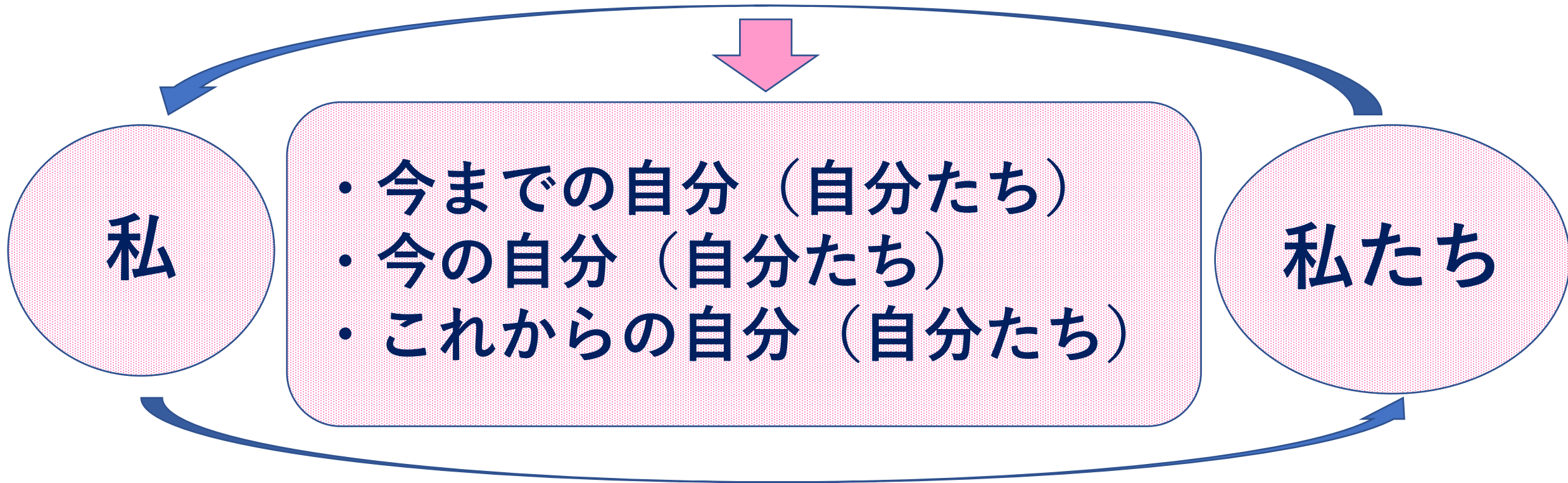
- ・もし、このようなことができればどう思う
- ・もし、このようなことがさらに加わればあなたは どうする 等

本質軸の視点移動

- ・どのようなことを学んだか
- ・どのような発見があったか
- ・どのようなことを大切にしていこうと思ったか 等

★ 「私」と「私たち」を見つめることが大切

道徳的価値に照らして



自己課題・我々課題を明確化

5 自己評価、集団評価、教師評価の工夫

※ 子どもたちのよりよく生きようとする心に関する 「よいところ探し」
が「特別の教科 道徳」の評価である

子どもたちの自己評価

(今日の授業でどのようなことを学んだか、今まで考えていたことから発展があったか、自分の課題を見つけることができたか等を押さえたい)

子どもたちの集団評価 (学級の状態)

(みんなの意見が出されていたか。こういうこともあったらよかったと思うことはあったか。みんなと共通理解できたこととしてどのようなことがあったか。みんなで取り組む課題を見つけることができたか等を押さえたい。)

教師評価 (教師による個人と全体に対する見取り)

(一人一人の成長と課題、学級の成長と課題の把握)

(一人一人のよさを見取る観点、学級の成長を見取る観点等の開発 等)

6 事後につなげていく工夫

- 掲示
- 朝の会や帰りの会（道徳タイム）
- 総合単元的道徳学習（プロジェクト型道徳学習） 等

※ 道徳の授業は教師にとって子どもたちの実態把握の時間でもある。気になったことや取り上げられなかった意見等について事後に聞くということも大切（個別指導へとつなぐ）

※ 学級全体に注意を向けることや計画的に授業での学びを発展させる取り組みを考えることも大切（日常生活や様々な教育活動につなぐ）

7 道徳的学びに関するノートの工夫

自らの道徳的学びを、記録し、評価し、設計する
(自分の財産、生涯の心の支えにいていく)

- 目標を明確にする (近き目標と遠き目標)
- 学びの積み重ね (記録する)
- 授業と日常生活等とつなぐ
- 見返す (リフレクション)
- 自己評価し、課題を見出し、取り組めるように計画する 等

発達段階に応じたノート指導が大切
ICTの活用を積極的に考えたい

4. 価値観多様化時代において いかに寛容の心を育てるか (憎しみを乗り越える力の育成)

- 世界中が憤りを感じているロシアのウクライナ軍事侵攻についてウクライナの先生方は子供たちに何を伝えようとしているのか。

NHKのBSで放送された「キーウ 子どもたちの冬」(2022年9月に半年ぶりに再開されたキーウの学校〈6歳~17歳までの子どもたちが通う)での子どもたちの様子や先生方の苦悩などを取材した内容)を基に考えてみましょう。

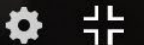
この番組は、NHKオンデマンドで見ることができます

NHKスペシャル 「キーウ 子どもたちの冬」

NHK

キーウ 子どもたちの冬

▶ 🔊 0:03:27 / 0:49:00



NHK

キーウ子どもたちの冬

ウクライナ キーウ
9月1日



NHK

キウ子と母の冬

戦争の今 自分に出来ることなどを考えてもらいましょう

NHK

キョウ 子どもたちの冬

公立学校 校長

憎しみは人格を破壊してしまう感情だからです

NHK

子どもたちの冬

合 私たちに必要なものは何だと思えますか？





でも父は戦地で重傷を負ってしまいました



僕たちはロシアの占領者たちと戦う義務があるのです

そして私たちは「許す強さ」を
手に入れることができるのでしょうか

A woman in a patterned vest stands on the right side of the frame, facing a group of children seated at a long wooden table. The children, including a boy in an orange shirt and a girl in a dark top, are looking towards her. The room is bright, with large windows in the background showing a view of trees. There are several potted plants on the windowsills and on the table. The walls are decorated with circular items. The overall atmosphere is calm and educational.

子どもの教育に懺悔は必要ありません

NHK

キーウ子どもたちの冬

パパが戦っているのは
敵に対する憎しみからでしょう？

NHK

キーウ子どもたちの冬

うん 彼らに対する憎しみをどう考えているの？



私はおまえたちに戦争を見せたくないから
戦っている。それだけだ。



パパは僕たちが戦争を経験しないために
戦っていると言っていました

NHK

キョウ 子どもたちの冬

憎しみはあなた自身を滅ぼすわ

NHK
キーウ子どもたちの冬

でも どうやったら
ロシア人を憎まないなんて出来るの？

憎しみだけではなく
希望を見つけられるようにしたいです

寛容の心を育てるために何が必要か

憎しみからは何も生まれない
(憎しみを繰り返していくだけ)
憎しみを乗り越える力をどう育てるか

共通の課題（目標）を見出す

共通の課題（目標）に対して一緒に追い求める

そのための知恵を道徳の授業で学び、日常生活や様々な学習活動の中に生かしていく

(腹の立つ、許せない相手に対して相手の立場に立って考えることは簡単にはできない。しかし、同じ人間である、一緒に生きていかなければならないと考えた時どうすればいいのかをしっかりと考えられるようにしたい)

道徳教育がこれからの教育改革の 先導役を果たせるようにしよう

(その要として「特別の教科 道徳」がある)

学校を真の豊かな
人間教育の場
にしよう

